

# Jークレジット制度 プロジェクト計画書 （森林管理プロジェクト用）

---

プロジェクトの名称：

木曾町森林吸収～木曾川上流域からきれいな水を～プロジェクト

プロジェクト 実施者名	木曾町長 原 久仁男
----------------	------------

妥当性確認申請日 2015年2月9日

プロジェクト登録申請日 2015年2月19日

## 1 プロジェクト実施者の情報

### 1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がいる場合は代表実施者）

実施者名	キノマチ
	木曾町
住所	長野県木曾郡木曾町福島 2326 番地 6

### 1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者 ※1

実施者名	(フリガナ)
住所	

※1 複数のプロジェクト実施者が参加する場合には、欄をコピーしてそれぞれのプロジェクト実施者の情報を記載すること。

### 1.3 J-クレジット保有者 ※1

保有者名	(フリガナ)
住所	

※1 J-クレジット保有者が決まっている場合は記入すること。

※ 以下、複数のプロジェクトをまとめて申請する場合は、2～4の内容を方法論ごと・実施場所ごとに記載すること。

## 2 プロジェクト概要

### 2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	木曽町森林吸収～木曽川上流域からきれいな水を～プロジェクト	
目的	木曽町町有林で植栽・保育・間伐を実施し、吸収量を増大させる。	
概要	木曽町町有林で、平成25年から平成30年にかけて植栽・保育・間伐を実施し、CO2吸収量を増大させる。	
プロジェクト実施場所	市町村	木曽町
	場所 ※1	2林班～3091林班

※1 「○林班～○林班」、「○○事業区」等と記載するとともに、森林計画図等の図面を添付する。

### 2.2 プロジェクト実施前後の状況

(プロジェクト実施前のプロジェクト実施地の状況※1) :

森林の現況 (人工林)  
別添森林資源構成表のとおり

※1 森林の現況、森林タイプ (人工林・天然林等) 別、樹種別、齢級別の面積と蓄積等について情報を表などにまとめ説明すること。また、間伐対象林についても同様の表と文章を作成すること。なお、説明には数値を用い、具体的に説明すること。また、林分が多数にわたる場合には、総括表を記載したうえで、森林簿、森林施業計画書又は森林経営計画書から上記情報が含まれている部分の写しを添付しても良い。

プロジェクト対象地は全て人工林とする。状況は下記のとおり

	面積 (ha)	蓄積 (m <sup>3</sup> )		面積 (ha)	蓄積 (m <sup>3</sup> )
ヒノキ	150.47	26,447	カラマツ	46.83	11,000
1 齢級	1.19	0	1 齢級		
2 齢級	2.51	0	2 齢級		
3 齢級	38.52	1,984	3 齢級		
4 齢級			4 齢級		
5 齢級	2.88	250	5 齢級		
6 齢級	3.71	557	6 齢級		
7 齢級	14.75	2,408	7 齢級		
8 齢級	5.74	782	8 齢級		
9 齢級	7.19	1,142	9 齢級	7.19	1,142
10 齢級	9.78	2,388	10 齢級	3.03	761
11 齢級	13.65	3,346	11 齢級	6.22	1,414
12 齢級	34.67	8,849	12 齢級	30.04	7,602
13 齢級	4.97	1,362	13 齢級		
14 齢級			14 齢級		
15 齢級	2.6	761	15 齢級	0.35	81
16 齢級	8.31	2,618	16 齢級		
17 齢級			17 齢級		

18 齢級			18 齢級		
19 齢級			19 齢級		
20 齢級			20 齢級		
21 齢級以上			21 齢級以上		

(プロジェクト実施後のプロジェクト実施地の状況 ※2) :

人工林(ヒノキ・カラマツ)の標準伐期齢はヒノキ 45 年、カラマツ 40 年であり、主伐の時期についてはヒノキ 90 年、カラマツ 80 年とし、その時期までに適切な時期及び施業を積極的に推進する。間伐間隔は、標準伐期齢未満は 10 年、標準伐期齢以上の林分は 20 年とし、間伐率は概ね 20% から 40% 以下で実施する。

搬出可能な林分においては列状、不可能な林分は定性で間伐を実施するが現場状況を勘案しながら決定する。

モニタリングエリアNo.9~11 は、森林簿では「カラマツ」として整理されているが、現在はヒノキが植栽されている。

よって、経営計画では高齢級の「カラマツ」が下刈り及び除伐されることになっている。この不一致は森林簿を 2015 年 4 月に修正する予定である。

※2 対象林において、森林経営計画又は森林施業計画に基づいた施業の方針について、主伐実施時期、間伐実施間隔、植栽樹種、定量/定性間伐の区分、間伐率等の内容を、数値を用いて具体的に説明すること。また、林分が多数にわたる場合には、総括表を記載したうえで、森林簿、森林施業計画書又は森林経営計画書から上記情報が含まれている部分の写しを添付しても良い。

## 2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 平成 25 年 4 月以降に実施されたプロジェクトである <input type="checkbox"/> 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月に実施されたプロジェクトであり、オフセット・クレジット (J-VER) 制度におけるプロジェクト登録を受けていない ※2 <input type="checkbox"/> 平成 20 年 4 月～平成 25 年 3 月に実施されたプロジェクトであり、オフセット・クレジット (J-VER) 制度におけるプロジェクト登録を受けている ※3
追加性	<input checked="" type="checkbox"/> 追加性を有している ※4

※1 「プロジェクトの実施日」とは、森林経営計画又は森林施業計画に基づく適切な施業又は森林の保護(森林の巡視等を含む)を実施した日を指す。

※2 【FO-002 (植林活動) について】平成 25 年度中に限り J-クレジット制度のプロジェクトとして登録申請を行うことができる。

※3 【FO-002 (植林活動) について】オフセット・クレジット (J-VER) 制度から移行したプロジェクトについては、「平成 25 年 4 月以降に実施されたもの」という要件を満たしている必要はない。

※4 【FO-001 (森林経営活動) について】追加性評価に関する詳細情報は別紙 (A.1) に示すこと。

### 3 方法論

#### 3.1 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	FO-001 ver. 2.1
	方法論名称	森林経営活動

#### 3.2 方法論の適用条件への適合

条件 1	■ 適合している	説明 森林法第 5 条に定める森林で実施される
条件 2 ※1	■ 適合している	説明 平成 25 年 10 月 1 日 25 木曾産観第 702 号で認定を受けている森林経営計画に沿って実施され、かつ、森林経営計画単位で実施される。
条件 3 ※2	■ 適合している	説明 主伐は計画されていない。
条件 4	■ 適合している	説明 認証対象期間内に森林経営計画に基づく植栽・保育・間伐が、プロジェクト実施地において計画されている
条件 5	■ 適合している	説明 プロジェクト実施地の土地転用（収用など避けがたい土地転用を除く。）が計画されていない

※1 【FO-001（森林経営活動）について】算定対象とする施業が含まれる全ての森林経営計画又は森林施業計画の認定番号及びその認定期間を記載すること。

※2 【FO-002（植林活動）について】算定対象とする施業が含まれる全ての森林経営計画又は森林施業計画の認定番号及びその認定期間を記載すること。計画が認定されていない場合は、モニタリング報告書に記載すること。

#### 3.3 モニタリング・算定方法

プロジェクト実施後吸収量		
主要／付随的	吸収活動	温室効果ガスの種類
主要	地上部バイオマス蓄積	CO2
主要	地(株)バイオマス蓄積	CO2

プロジェクト実施後排出量		
主要／付随的	排出活動	温室効果ガスの種類
主要	該当なし	CO2
主要	該当なし	CO2

#### 4 吸収計画

認証対象期間 ※1	2014年4月1日 ～2021年3月31日（7年0ヶ月）				
吸収計画※2	年度	ベースライン 吸収量	プロジェクト 実施後吸収量	プロジェクト 実施後排出量	吸収量
	平成25年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	平成26年度	0 t-CO2	1,200.3 t-CO2	0 t-CO2	1,200 t-CO2
	平成27年度	0 t-CO2	1,187.2 t-CO2	0 t-CO2	1,187 t-CO2
	平成28年度	0 t-CO2	1,241.2 t-CO2	0 t-CO2	1,241 t-CO2
	平成29年度	0 t-CO2	1,281.2 t-CO2	0 t-CO2	1,281 t-CO2
	平成30年度	0 t-CO2	1,256.2 t-CO2	0 t-CO2	1,256 t-CO2
	平成31年度	0 t-CO2	1,157.2 t-CO2	0 t-CO2	1,157 t-CO2
	平成32年度	0 t-CO2	1,075.1 t-CO2	0 t-CO2	1,075 t-CO2
	合計	0 t-CO2	8,398.4 t-CO2	0 t-CO2	8,397 t-CO2

※1 認証対象期間は、プロジェクト開始日の含まれる年度の開始日から平成33年3月31日までの間で設定すること。

※2 吸収量の算定方法については、別紙A.2に記載すること。

## 5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

### 5.1 モニタリング体制

データ管理責任者 ※1	木曾町役場 農林振興課長
モニタリング担当者 ※1	木曾町役場 農林振興課主査

※1 担当者の組織、役職名を記載すること（個人名は不要）。原則として、それぞれ別の担当者をおくこと。

### 5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続 ※1	プロジェクト実施後の植栽・保育・間伐面積を測量し、データを保管する。 毎年の吸収量を集計表に記録する。 施業の実施届等を保管する。
データ保存期間 ※2	認証対象期間終了後 <u>10</u> 年間

※1 認証対象期間において複数の担当者がモニタリングを行う場合には、全ての担当者が適切にモニタリングデータの収集・記録・管理を行うための仕組みも併せて記載すること。その際、森林管理のための巡視を行う体制を明記すること（森林の巡視とは、一般的に、森林の保全管理及び森林の産物の盗採、林野火災等の森林被害の防止及び発見のために、定期的及び必要に応じ森林において行うもの）。

※2 原則認証対象期間終了後 10 年間とする。

## 6 特記事項

### 6.1 吸収量に影響を与える可能性のあるリスクの特定について ※1

吸収量に影響を与える可能性のあるリスクがあるか <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
---

※1 プロジェクト排出量が増加し、プロジェクト吸収量を上回る可能性のあるリスクも含む。リスクの例は、記載例を参照

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	山火事や獣害、風倒、雪害が想定されるが、従来大きな被害が認められないこと、森林の巡視等によりリスクを低減させる。

### 6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。 <input type="checkbox"/> 登録している (類似制度名： _____ ) 類似制度での認証予定期間： _____ ) <input checked="" type="checkbox"/> 登録していない
--

### 6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。 <input type="checkbox"/> 法令等の義務履行によるものではない。 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等の義務履行によるものである。(森林法)
---

### 6.4 認証対象期間の設定について

認証対象期間の前後の年度に、主伐の実績又は計画はないか。 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 有の場合、認証対象期間は、クレジットを過大に発生させる目的で、主伐の時期を意図的に避けて設定していないか。 <input type="checkbox"/> 意図的に避けたものではない (設定の考え方： _____ ) (例) 森林経営計画の計画期間を認証対象期間としている
--